

# DBMで導水ポンプを更新

## クボタ クボタ機工 「K S I S」活用し維持管理

### 神奈川県内(企)と契約を締結

クボタとクボタ機工で構成する企業グループは、神奈川県内広域水道企業団から「相模原ポンプ場導水ポンプ設備等整備事業」を受注し、さき

は、クボタのIoTソリューションシステムである「K S I S」(クボタスマートインフラストラクチャーシステム)を活用し、事業の省力化・効率化を図る。

同企業団の相模原ポンプ場は、酒匂川や相模川で取水した河川表流水を、相模原浄水場や西長沢浄水場に導水するため

を強化するとしており、相模原ポンプ場については、これまで場内の保安用電力を賄う容量であった非常用発電設備を、導水ポンプ1台の運転を可能にする容量(4000kVA)に更新するとともに、安定導水を継続しながら1500の導水ポンプ4台をすべて更新することにした。

事業の発注にあたっては、民間企業が持つ企画力や技術力を活用するためDBM方式が採用され、総合評価方式による審査の結果、「設計・施工の内容」「維持管理の方法」「イニシャルコストとメンテナンスコストの縮減」などについて、クボタグループの提案内容が評価され、受注・契約につながった。同社グループの提案では、K S I Sを活用したポンプの傾向管理・劣化予測・診断などのIoT技術盛り込んだ。具体的には、ポンプに常設型の診断装置を設置し、クラウドサーバと連携させることにより傾向管理や劣化予測を行う技術を導入する。また、導水ポンプ性能診断による劣化状態の判定も行う。

「水」のトータルソリューション企業グループの強みを活かし、今回の整備事業を通じて同企業団の安定的で効率的な事業運営の実現や、安全で安心な水道用水の供給に寄与するとしている。また、水道だけではなく下水道などの水インフラの整備・運転維持管理において民間活力の導入が進められていることを踏まえ、今後もPPP事業を通じた水インフラの持続と発展に貢献するとしている。

ごろ契約を締結した。設計・施工および維持管理業務を一括して発注するDBM方式により、国内最大級の導水ポンプ設備や速度制御設備、非常用発電設備の更新設計・施工・維持管理を行うもので、15年間にわたるポンプ場の維持管理において

の施設で、最大導水量は6万1200立方メートル。同企業団が策定した「かながわ広域水道ビジョン」では、激甚化する自然災害や事故に備えるため、施設の停電対策

は、民間企業が持つ企画力や技術力を活用するためDBM方式が採用され、総合評価方式による審査の結果、「設計・施工の内容」「維持管理の方法」「イニシャルコストとメンテナンスコストの縮減」などについて、クボタグループの提案内容が評価され、受注・契約につながった。同社グループの提案では、K S I Sを活用したポンプの傾向管理・劣化予測・診断などのIoT技術盛り込んだ。具体的には、ポンプに常設型の診断装置を設置し、クラウドサーバと連携させることにより傾向管理や劣化予測を行う技術を導入する。また、導水ポンプ性能診断による劣化状態の判定も行う。

は、民間企業が持つ企画力や技術力を活用するためDBM方式が採用され、総合評価方式による審査の結果、「設計・施工の内容」「維持管理の方法」「イニシャルコストとメンテナンスコストの縮減」などについて、クボタグループの提案内容が評価され、受注・契約につながった。同社グループの提案では、K S I Sを活用したポンプの傾向管理・劣化予測・診断などのIoT技術盛り込んだ。具体的には、ポンプに常設型の診断装置を設置し、クラウドサーバと連携させることにより傾向管理や劣化予測を行う技術を導入する。また、導水ポンプ性能診断による劣化状態の判定も行う。

は、民間企業が持つ企画力や技術力を活用するためDBM方式が採用され、総合評価方式による審査の結果、「設計・施工の内容」「維持管理の方法」「イニシャルコストとメンテナンスコストの縮減」などについて、クボタグループの提案内容が評価され、受注・契約につながった。同社グループの提案では、K S I Sを活用したポンプの傾向管理・劣化予測・診断などのIoT技術盛り込んだ。具体的には、ポンプに常設型の診断装置を設置し、クラウドサーバと連携させることにより傾向管理や劣化予測を行う技術を導入する。また、導水ポンプ性能診断による劣化状態の判定も行う。

は、民間企業が持つ企画力や技術力を活用するためDBM方式が採用され、総合評価方式による審査の結果、「設計・施工の内容」「維持管理の方法」「イニシャルコストとメンテナンスコストの縮減」などについて、クボタグループの提案内容が評価され、受注・契約につながった。同社グループの提案では、K S I Sを活用したポンプの傾向管理・劣化予測・診断などのIoT技術盛り込んだ。具体的には、ポンプに常設型の診断装置を設置し、クラウドサーバと連携させることにより傾向管理や劣化予測を行う技術を導入する。また、導水ポンプ性能診断による劣化状態の判定も行う。